

平成30年度 電子情報学専攻 輪講 公欠レポート

コメント者：グエン・アン・トゥアン 学籍番号： 48-177409

博士2年 電子情報学専攻 佐藤真一研

2017年5月31日 (Eastern Time Zone)

発表者 48-177401 韓 燦教

発表タイトル

圧力センサシートで物体 ID を認識するための凹凸マーカの設計

コメント

物体のIDやラベル情報を埋め込むマーカの設計だと思います。よくラベルづけだと思いますが、環境に優しい場面を考えるとどうしますか。例えば、紙でやっているとかかなり環境の問題が出てくるので、いまはほとんど電子的のデバイスになっていますが。要は、paperlessでも問題なく研究プロジェクトに集中した方が、長いスパンで考えると絶対に環境にいいと思いますよ。

発表者 48-177405 Hiroshi Kera

発表タイトル

Exact Approximate Vanishing Ideal

コメント

「この曲線で行くと、その点に入ったら、消失します」ということで、同時に曲線と点の対を推定するアルゴリズムを開発しました。とてもよく分かりました。消失すると、追跡できなくなるので、これらの曲線と点の対を推定することの重要さがわかりました。多分色々な実験をやっていると思うけど、個人の経験を聞きたいですが、まだ一次消失（その点に入ったら消失するだけで）を考えていると思いますが、そのあと、もう一度出てくる周りはどうするか、二次消失と高次消失とかはどうしますか。

発表者 48-177403 遠藤 亘

発表タイトル

タスク並列に基づく分散共有メモリライブラリの実装

コメント

I think it is important to manage multiple workers with parallelization to accelerate the speed of program execution. It is a serious issue when the complexity of problem is large. For instance, when the size of label matrix is big and the speed of one worker is limited. When connected during the task, the worker should communicate about the progress of their executions (but it is not presented in this library), and of course a Distributed Shared Memory system is needed. It would be interesting if we can see it runs on real-world problems with big label matrices, and when workers' performance is diverse.